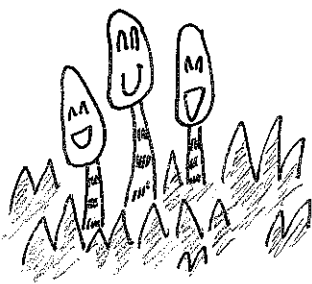


皆さん春ですよ~!

利根日石新聞 第41号のお届けです♡



3月、受験・卒業のシーズンです。わが家も長男が受験を控えています。猛勉強の様子は見られません。休みの日、昼近くまで寝ている姿は... 親だけが焦っています。



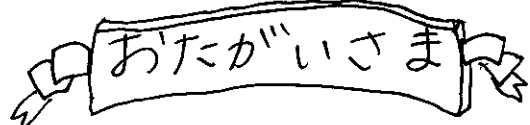
そして、14日は**ホワイトデー**!! 友チョコなのか? 義チョコなのか、兄弟そろってもらってきましたが、お返しが大変です! そして、長男はその件に関しては、何も教えてくれません。年頃のせいなのか、全くもらえなかったのか... ♡



今日は、第43回JX童話賞入賞者の作品をご紹介します



一般の部 金田さんの作品



2009年11月1日 創刊

平成25年3月号

第000041号

発行

利根日石株式会社

本社販売管理課

TEL: 0278-24-1635

FAX: 0278-23-7980

「どうもありがとう。」

わたしの腕にろうじて支えられたその人は、ほっとしたように言った。

午後六時の北千住駅のホーム。電車から降りる人波に押しされて、転びそうになったのをとっさに受けとめた。髪はきれいなブラウンに染められているが、てっぺんが白い。小さい孫のいる年齢だろう。

改めて深々と下げられた頭に見送られ、わたしは電車に乗った。ちよと照れくさい。

しかし間もなく、そんな照れくさいも吹きとぶほど、人いきれの車内に我が身を押しこめ、押しこまれ、やっこのことで手すりにつかまる。池袋で行われた社外研修の帰りだった。かばんの中は資料でぎっしり重く、肩にくいこんでいる。

単調な車内アナウンスが、電車の揺れを予告した。じきに体の重心が前へ、後ろへ移る。

もともと電車は苦手だ。よどんだ空気に、よどんだ匂い、不快な揺れと機械音。乗り換えのときに一旦は解放されるけど、すぐにまた同じ環境に戻らねばならない。まるで交代相手のいないリレーをやらされているようなもの。

わたしは肺の中で生ぬるくなった空気を吐きだした。

三つ目の駅が過ぎさった辺りで、それまで感じていた不快さがふいにピークに達した。

喉の奥から酸っぱいものがせりあがった。目の前かがすみ、冷や汗が流れた。必死でかばんからタオルハンカチを取りだし、口元を押さえる。がんばれ、とわたしは自分に言いさかせた。今までだってやり過ごせたんだ、あともう少しだから、と。

「どうぞ。」

声をかけられて、わたしはハッと見た。

見ると、前のシートに座っていた白髪頭のおばあさんが、腰を浮かすようにしていた。

「大丈夫です。」

とっさにわたしは答えてしまう。

「でも顔色が悪いよ。」

そう言って立ちあがったおばあさんの背中がひどく曲がっていた。とんでもないと思わずその肩を押しとびめた。

「ほんとに、あともう少しだけなんて。」

「そうやってずっとがんばってきたんでしょ。」

見かけとはうらはらに、かくしゃくとした態度でおばあさんは言った。「あと少しのところで倒れたらどうするの。おたがいさまなんだから、助けあいましょ。」

気がつくやうに、その人とわたしの位置が逆転した。

はるか年上の人に譲られた席に居心地の悪い思いで収まりながらも、わたしの心にはその「おたがいさま」という言葉が強く印象づけられた。そういえば、わたしも、この電車に乗る前に人助けをしたっけ。

そうか、おたがいさまって、こういうことなんだ。わたしは肩からあつとかが

抜けていくのを感じた。わたしを苦しめていた無機質な圧迫感が、少しずつたけてやわらいてきた。でも奇跡はそれだけでは終わらなかった。隣に座っていた学生服の男の子が、さっきから居心地悪そうにもぞもぞしていたが、やがて

「あ、こっちにどうぞ。」とおばあさんに向かって腰を浮かせた。

温かなリレーは今、空気の一部となつてつながっていった。

ね、好きの方にはたまらない、おすめの本で〜す!

『世界から猫が』

消えたら』

作: 川村元氣

もし、あなたの命と、全世界の猫の存在を置き替えにされたら

あなたは どうおす?

読みづらくて、おめせ

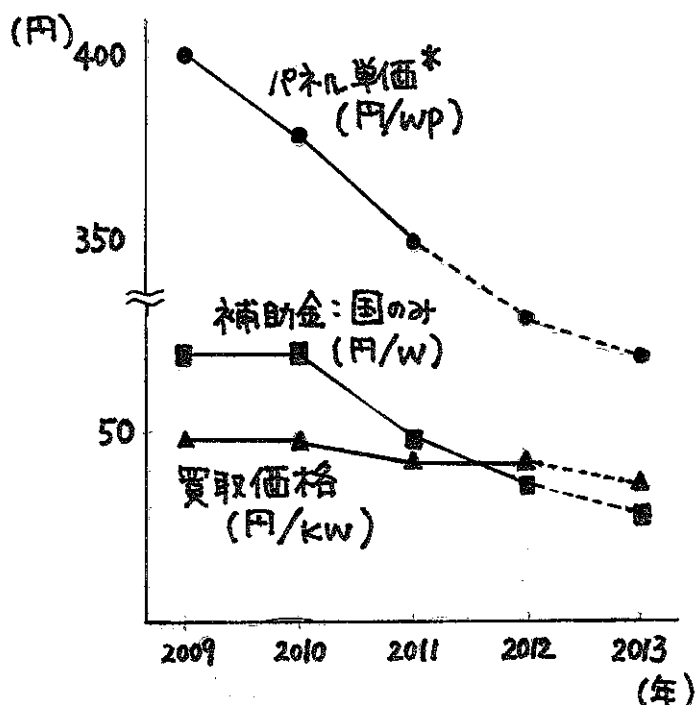
太陽光発電、42円 申請終了

平成24年度に設置した太陽光発電システムは1kWあたり42円での買い取りが10年向約束されていますが、その申請が実質上終了しました。

太陽光発電システムを設置するには、先ず①どのメーカーの②どのパネルで③何kWにするか、決めた上で経産省に「設備認定」の申請を行います。申請が受理されてから、電力会社と電力需給の契約を結びます。この契約が3月31日までに結ばれることが42円での買い取りの条件です。ただし、設備認定には大まか1ヶ月掛かる事から、経産省・資源エネルギー庁は本年度中での設備認定の目安を2月22日としていました。

当社でもギリギリまで設備認定の申請に追われましたが何とか今年度の認定には間に合いました。来年度、平成25年度の買い取り価格はまだ決定していませんが30円代後半になるだろうというのが大方の予想です。今年に比べると、随分と損をしそうに思えますが、悪いことばかりではありません。設備費は年々下がってきているし、発電効率は徐々にではありましたが上がっています。これらの動きを勘案して、その年の買い取り価格と補助金は決められます。つまり、再生可能エネルギーの代表格である太陽光発電の普及を促したい国としては、設備費がこんなくらい下がるだろうから、買い取り価格と補助金は、この辺りまで下げても普及が進むだろうと、ある程度の魅力を感じられる価格帯に設定する訳です。

ただ、昨年度の42円、特に産業用も同額の42円という設定は、業界や関係者の予想を遥かに上回っていたので、恐らく特にコストリットの出る年だったと言えるでしょう。



*国際エネルギー機構(IEA) PVPSレポートE
基に作成

先日、東京ビッグサイトで行われた「スマートエネルギーWEEK 2013」に行きました。太陽電池展や水素・燃料電池展、風力発電展など、再生可能エネルギーや次世代エネルギーの総合見本市です。ここ数年、情報収集で見に行っているが、年々出展しているブースの数が増えています。太陽電池展では、シャープや京セラ、パナソニックといった国内の大手メーカーに加えて、サテックやカナディアンソーラーといった中国メーカー、さらに今年はヒュンダイやLGなどの韓国メーカーも新たに出展しており、会社の大きさや国籍に関わらず、こぞ太陽電池産業に参入しているように感じられます。

こうした海外製の参入により、品質のより豊富な国内の有効メーカーの価格も下がってくるでしょう。